※清永啓太さん（地域おこし協力隊）のイラストを掲載します。季節で変わる予定ですので、お楽しみに！

市民の声を反映

各校区で、市長と市民が直接対面し、意見交換を行う「第２回市長と語る会」が開催されました。会では、参加した市民のみなさまから、高騰する物価に対する声や企業支援に関する声などをはじめ、さまざまな分野から多岐にわたる意見や質問が挙がりました。

市長は「腹を割って本心で話し、私の素直な思いを市民の方々に伝えたい」と語り、市民一人ひとりの意見に対して自身の考えを示しました。

安全を最優先

5/18

菱刈環境改善センターで、川内川河川事務所職員による水門操作・管理方法についての説明会が行われました。説明会には 14 人の水門操作員が参加し、説明資料をもとに操作要領やアラームメールなどを活用した情報収集方法などについて説明を受けました。説明の中で、身の危険を感じたら避難するようにと水門操作員が自身の安全を最優先に行動することを促し、現場の状況を判断したうえで対処するよう呼びかけました。

大口城を桜の名所に

４月 20 日、大口城を愛する会が公益財団法人日本さくらの会から「さくら功労者」表彰を受けました。大口城を愛する会は、大口城史跡の整備と桜の植樹をボランティアで行い、参加者は延べ 2,000 人以上、植樹した桜木は 600 本以上になります。

４月 26 日に市長を表敬訪問した新東晃一会長（写真中央）は「仲間たちとの活動が表彰されて大変うれしい。大口城は新納忠元公が城主を務め、薩摩藩の歴史的にも大変貴重な遺跡です。桜の名所として市民憩いの場所になるよう、これからも活動していきたいです」と話しました。

レクダンス フェスティバル開催！

5/15

伊佐市体育センターで、第36回伊佐レクダンスフェスティバルが開催されました。新型コロナウイルスの影響により、2019年に第35回以降、開催が見送られていたため、約3年ぶりの開催となりました。市内だけでなく、市外各地からも大勢の方々が訪れ、90人を超える参加者が体を動かしてレクダンスを楽しみました。

また、会場にはウクライナ支援のための募金箱が設けられ、集まった寄附金は社会福祉協議会から日本赤十字社を通じてウクライナへと送られます。

人形劇の魅力を体験

4/29・30

田中ふるさと館・伊佐市文化会館で、人形劇「おしいれのぼうけん」が公演されました。この人形劇は、地域おこし協力隊の西上寛樹さんが脚本・演出を務め、妻の美里さん（人形劇団ひとみ座）が出演されました。

観劇した子どもたちは、活き活きと動く人形とからくりいっぱいの舞台演出に、「あっ！」と声をあげて驚いたり、目を丸くしたり、物語の世界を楽しんでいました。

こどもたちが狂言を体験

5/14

牛尾小学校体育館で、狂言師の河野佑紀さんによる狂言のワークショップが行われました。参加した子どもたちは、狂言の歴史をはじめ、狂言における立ち方・座り方などの所作を教わり、実際に狂言のセリフを朗読するなどして狂言の世界を体験することができました。

思いやりの気持ちを育む

5/10

平出水小学校で「人権の花」運動開会式が行われ、人権擁護委員からマスコット人形や昨年度曽木小学校で育てられたひまわりの種などが贈呈されました。

また、サプライズで人権イメージキャラクターの人KENまもる君も登場し、式を盛り上げてくれました。

児童代表あいさつで前田常成さん（6年）は、「みんなで協力して、助け合いながら花を育てることによって、命を大切にする心や思いやりの心などを育てることができます。笑顔と友情があふれる学校を作りましょう」と話しました。